

小児看護学実習

実習要項

小児看護学実習

I 実習目的

社会の中で暮らす子どもの健やかな成長発達促進に向け、児とその家族に対する看護の役割について学ぶ

II 実習目標

- 1 社会の中で暮らす小児とその家族の特徴を理解し、成長発達を促すために必要な援助を学ぶ
- 2 小児の権利を尊重し、小児やその家族に必要な看護援助を体験的に学ぶ
- 3 小児を取り巻く保健・医療・福祉・教育など、各組織の機能と連携を理解し、看護の役割について考える

III 評価規準（めざす姿）

- 1 小児の成長発達の特徴を理解し、様々な状況にある児や家族の健康状態を表現している
- 2 小児の成長発達段階や個性に応じた援助を考え実践している
- 3 小児の権利を理解し、倫理観をもって小児やその家族と関わっている
- 4 小児や家族との関わりを通して自己の小児観を深め、地域社会における小児看護の役割を表現している

IV 単位と時間数及び実習場所

3単位 90時間

実習内容	実習場所	実習時間	実習時期
こども園実習 ※いずれか1施設	静岡市立入江こども園 静岡市立駒越こども園 静岡市立清水こども園 静岡市立川原こども園 静岡市立辻こども園 静岡市立飯田南こども園	27 時間	3 年
病院実習 (小児科病棟・ 小児科外来)	静岡市立清水病院	43 時間	
障がい児支援施設見学実習 ※いずれか1施設	社会福祉法人 静岡市清水うみのこセンター、 静岡市中心身障害児福祉センターいこいの家	2 時間	
障がい児支援施設実習 ※いずれか1施設	社会福祉法人 静岡市清水うみのこセンター、 静岡市中心身障害児福祉センターいこいの家、 静岡県立中央特別支援学校	18 時間	
	計	90 時間	

V 学習内容

学習活動	実習場所	学習内容	評価規準	評価資料
社会の中で暮らす小児やその家族について理解する	こども園	◆小児とのコミュニケーション、日常生活、遊び、家族との様子から、以下の内容を学ぶ。 1) 健康な乳幼児の形態的特徴、機能的特徴、精神・運動機能の発達の特徴について知る。 2) 家族や家庭の環境の重要性を考える。 3) こども園の役割と機能を知り、小児にとっての社会との関わりについて考える。	小児の成長発達の特徴を理解し、様々な状況にある児や家族の健康状態を表現している	実習記録 ・こども園実習 ・患者記録Ⅰ ・1日の実習計画表 ・障がい児支援施設実習 ・外来実習 カンファレンス発言 実習状況 面接
	小児科病棟	【病児を受けもつ場合】 ◆入院している患児や家族との関わり、情報収集から以下の内容を学ぶ。 1) 受けもち患児の常在条件（成長発達、基本的生活習慣の自立状況、社会・心理・家族関係）を把握する。 2) 小児の健康障がいの状態を観察する。 3) 受けもち患児の病理的条件（病気の経過、入院目的を知り、疾病の治療や検査方法、予後）について把握する。 4) 健康障がいや入院によって生じた小児および家族への影響を考える。 【ハイリスク新生児を受けもつ場合】 ◆新生児室に入院している患児の観察、家族の様子から以下の内容を学ぶ。 1) ハイリスク新生児の形態的特徴、機能的特徴を理解する。 2) ハイリスク新生児に起こりうる問題を考える。		
	小児科外来	◆小児科外来を訪れる小児や家族の様子を通し、以下の内容を学ぶ。 1) 一般外来や乳児健診、予防接種の見学から、小児の形態的特徴、機能的特徴、精神・運動機能の発達、評価を行う。 2) 小児の計測を見学、または実施し、観察を行う。 3) 受診までの経過の情報収集を行う。 4) 外来受診をする小児と家族の心理を考える。		
	障がい児支援施設	◆障がい児支援施設に通所・通学する対象者の様子から、以下の内容を学ぶ。 1) 健康や発達の障がいがある、小児や家族の日常生活や社会生活に及ぼしている影響を知る。		
小児の成長発達を促すための取り組みを実践する	こども園	1) 小児の発達段階と日常生活の自立状況を把握し、支援の実際から小児の自立に合わせた援助方法について理解する。 2) 小児との関わりから遊びの意義を考える。 3) 小児に起こりやすい事故とその予防方法を学び、事故防止策を実践する。	小児の成長発達段階や個性に応じた援助を考え実践している	

	小児科病棟	【病児を受けもつ場合】 1) 入院により成長発達を妨げないよう、望ましい療養環境を考え、日常生活の援助を実践する。 2) 小児に必要な遊び、または学習への援助を実施する。 3) 患児に行われて看護援助の見学から、小児にとって安全で負担の少ない援助を考え実践する。 4) 小児や家族のニーズに合わせた看護援助を考え実践する。 5) 入院環境から小児に起こりやすい事故を予測し、適切な環境を整える。 【ハイリスク新生児を受けもつ場合】 1) ハイリスク新生児の観察、身体測定、清潔の援助、治療や検査の援助、栄養供給への援助の実践を見学、または実施する。 2) ハイリスク新生児にとって望ましい環境を児の特徴から考え、保育器の取り扱い方法を学ぶ。		
	小児科外来	1) 小児の診察、治療や検査時の介助方法を見学する。 2) 育児に対する母親の抱える不安などを知り、生活指導の実践を見学する。		
	障がい児支援施設	1) 小児の健康保持・増進のための援助の実践を見学する。		
小児の権利を護るための行動をする	こども園	1) 小児との関わりから、児の発達や個性に合わせたコミュニケーションのあり方を考える。	小児の権利を理解し、倫理観をもって小児やその家族と関わっている	日々のラベルとプロセスチャート 実習状況 1日の実習計画表 面接
	小児科病棟	1) 小児看護領域でとくに留意すべき子どもの権利を守り必要な援助を行うために看護者として必要な姿勢を学ぶ。 2) 面会における家族（母親、父親）の言動を観察し、家族の思いを理解する。		
	小児科外来	1) 一般外来、乳児健診、予防接種の見学から小児看護領域でとくに留意すべき子どもの権利と必要な看護行為について考える。		
	障がい児支援施設	1) 心身や発達に障がいをもつ小児の思いを知ろうと自ら働きかけることができる。 2) 一人一人の小児の個性をふまえてコミュニケーションを図る方法を理解する。		
自己の小児観を表現する	こども園	1) 乳幼児の成長発達を促進させるための関わりから、自己の小児観を表現する。	小児や家族との関わりを通して自己の小児観を深め、地域社会における小児看護の役割を表現している	日々のラベルとプロセスチャート 実習状況 レポート 面接
	小児科病棟	1) 援助を振り返り、小児に適した看護援助について自己の考えを深め、看護の役割を表現する。		
	小児科外来	1) 外来看護の役割と継続看護の必要性を考える。		
	障がい児支援施設	1) 心身や発達に障がいをもつ小児が教育を受ける場または保育の場を見学し、保健医療と福祉、地域社会との連携について考える。 2) 心身や発達に障がいをもつ小児が在宅で生活していくために必要な看護を考える。		

VI 実習方法

1 こども園実習 (9時間×3日間)

1) 具体的方法

※事前準備として、クラス配置に応じた自己の3日間の実習目標を立案し教員の助言を受ける。

- ①実習するクラスに入りこどもたちと関わりをもち、日常生活の自立状況を観察しながら必要な援助を行う。(3日間、年齢の違うクラスに入り実習を行う)

こどもへの援助は必ず担当の保育教諭の監督のもとで行い、自己判断をしないように注意する。
安全に配慮し、ケガや事故は保育教諭、教員に報告する。

- ②こどもたちのお手本になることを自覚して接する。

例) 笑顔で元気よく。返事は大きな声でしっかりする。昼食を残さず食べる。丁寧な言葉を使う。
靴はそろえる。等、身なり姿勢に配慮する。

- ③事前学習ノートは毎日持参し、気になるところは確認していく。

- ④カンファレンスは学生主体で行い、日々の学びについて月齢の低いクラスから順に意見交換する。
時間は子どもの午睡時間となる13時頃から実施。園により異なるため、担当教員に確認すること。
カンファレンスでの内容はノートに記録し、こども園実習終了後に担当教員に提出する。

2) 服装および持参するもの

- ①服装：トレーニングウェア（ズボンは長い丈のもの）に実習用エプロンを着用

エプロンは、実習用（学校の備品を1人2枚借用する）と配膳用（私物）を準備する。

- ②持ち物：三角巾またはバンダナ（配膳用）、手作り名札、外用運動靴、帽子、水筒（水分補給用）
室内用シューズ（体育館シューズ）、箸とプラスチックのコップ（給食袋に入れて）、
タオル、ティッシュ、着替え（靴下、Tシャツなど）、時期により水遊び用衣類または水着

3) 給食の利用

- ①こども園の給食を利用する。(昼食は、こどもの食事時間にこどもたちと一緒に食べる。)

- ②代金は、最終日の朝にリーダーがまとめて封筒に入れ、園長に直接支払う。

1日分の給食費（昼食＋おやつ）×利用日数×学生数を用意する。(金額は担当教員に確認する)

4) 出欠席の連絡

- ①リーダーは、学生の出欠席状況を確認し、毎朝園長に報告する。

やむを得ず欠席または遅刻をする場合は、8時20分までにこども園と学校に連絡する。

5) 実習記録

- ①こども園実習の記録はすべてペン書き（ボールペン使用）にする。誤字は二本線で消し、訂正印もしくはサインを記すこと。(ペンで塗りつぶしたり、修正テープ等は使用しない。)

- ②こども園実習記録用紙（1日1枚）は、目標を記入し、毎朝担当保育教諭に伝える。その他は実習終了後に記録し、翌朝園長に提出する。実習3日目の記録は、課題レポートと一緒に担当教員に提出する。

- ③課題レポートは、『私の小児観』をテーマに記述する。こども園実習終了翌日（または初めて登校した日）に担当教員に提出する。

6) 保菌検査について

- ①こども園実習では乳幼児と接するため、感染予防のために保菌検査（検便検査）を実施する。

- ②検査は、こども園実習前1カ月未満の期間で学校から指定のあった日に行う。指定日に遅れた場合は個人的に行う。未検査や検査で陽性となった場合はこども園実習を行うことができない。

7) 注意事項

- ①通学方法は、原則として公共交通機関を使う。許可があれば、バイク・自転車のみ使用可

- ②更衣は、職員休憩室を使用させていただく。個人の荷物はコンパクトにまとめ、置き場所を確認する。貴重品はできるだけ持たない。私物はすべて毎日持ち帰る。

- ③こども園で知り得た情報については、守秘義務を守ること。

8) タイムスケジュール

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	こども園	こども園の概要、保育指針、安全管理について理解する	1 日目は、こども園園長または実習指導者よりオリエンテーションを受ける 2・3 日目は 8:30 より各クラスに入る。各クラスに入った際、クラスの担当保育教諭に本日の目標を自ら伝える
8:50	こども園 各クラス	幼児期にあるこどもの成長発達の特徴、日常生活習慣の実際と習慣を身につけるための援助方法を学ぶ。また、こどもたちが遊ぶ様子を観察し、こどもにとって遊びの意義を考え、社会性を身につけていく過程を学ぶ	各クラスにて、こども園の日課に沿ってこどもたちと一緒に過ごす 保育教諭の指導のもとに日常生活援助を行う こどもたち同士のトラブルなどがあった場合は、保育教諭に相談する
11:30			
12:00		昼食準備やこどもたちと食事をする中で、こどもの食行動と自立に向けた支援の方法を学ぶ	こどもたちと一緒に食事の準備を行う（食食用エプロンと三角巾着用） クラスで食事を一緒に摂り、児の状況に応じた食事介助を行う（食事後に休憩をとる）
13:00 頃			
15:00	こども園 職員室またはホール	小児の成長発達の特徴や日常生活の様子から、小児とのかかわり方、自立に合わせた支援の方法、望ましい環境について考える。	学生カンファレンスでは、こどもたちの日常生活習慣の状況や自立に向けた支援について、遊びの状況から社会性を養う過程、言葉の発達の状況や思いを引き出す方法など学んだことを発表し、意見交換を行う
16:15		送迎時の保護者の様子や、こども園と家庭との連携について学ぶ	各クラスにてこどもと関わり、こどもの成長発達の特徴や日常生活の様子について学ぶ
	こども園 各クラス		おやつ準備ならびに介助を見学する こどもたちの帰宅時の支援を見学する 実習終了

2 小児病棟実習（病棟実習：9 時間×3 日間、最終日のみ 7 時間×1 日間）

1) 具体的方法

- ①患児（病棟に入院している乳児、幼児、学童児及び、新生児室に入院している新生児）を 1 日 1 人受けもち、看護師とともに患児や家族へのケアや処置を見学または一緒に体験する。
- ②患児や家族の観察と情報収集を通して、対象の全体像を捉え記録Ⅰへ整理する。
- ③導き出した問題点について必要な看護を考え、看護師と共に実践する。
- ②自分が行った看護援助について日々評価を行う。
見学したケアや自分が行った援助が患児にとってどのような意義があるのか、患児の看護について自己の考えを深める。
- ③入院患児のケアや処置を見学し、小児看護技術の特殊性を学ぶ。
事前にどのようなケアや処置があるのか分かっている場合には、事前学習を行う。
ケアの予定がわからず、急に見学を行った場合には、事後の学習を行う。

2) 実習記録

- ①病棟実習記録は、一日の実習計画と小児看護学実習記録Ⅰを記入する。
記録物は、個人の実習ファイルに綴じ込み、実習開始前に病棟の所定の場所に置く。

3) 注意事項

病棟実習では、ユニフォームに小児実習用エプロンを着用する。

4) タイムスケジュール

時間	場所	ねらい	学生の動き (乳児、幼児、学童児受けもちとなる場合)	学生の動き (新生児室に入院中の新生児の受けもちとなる場合)
8:30	清水 病院 3階 病棟	受けもち患児の身体的状況を理解する	管理報告を聞く 新しい受けもち患児を担当するときは、指導者より受けもち患児について説明を受け、患児とその家族に挨拶を行う 患児の情報収集を行う 受けもち2日目以降：担当看護師と計画の打ち合わせを行う（夜間の情報はカルテより情報収集を行う）	管理報告を聞く 担当看護師に挨拶をし、手洗い、手指消毒をして入室する 担当看護師に実習目標を発表する
12:00 12:45 14:00	3階 病棟 学習室 3A側	健康障がいを抱える小児と関わり、小児の思いを考える 受けもち患児のケアを通して健康障がいや入院によって小児の日常生活がどのように影響を受けているか考える 健康障がいを抱える小児に行われているケアを見学し、小児の看護で大切だと思う場面をとらえる	受けもち患児やその家族と関わる 環境整備の実施 受けもち患児に行われているケアを見学する 2日目以降は、受けもち患児の状態に合わせた援助を計画する （児や家族に必要な指導、遊びの企画、学習の支援、生活習慣への支援など） 11:00までに看護師に報告を行う	担当看護師の指導のもとに、新生児のケアの見学や実施を行う ・バイタルサイン測定、観察方法、身体計測方法の見学 ・治療や検査の援助の見学 ・清潔へのケア（沐浴、清拭）の見学 ・おむつ交換、授乳 ・小児科新生児室の環境調整 ・保育器の取り扱い ・感染対策
		昼食を通し、受けもち患児の食行動の自立状況を把握し、必要な支援を行う	昼食の配膳、または食事介助（児の状況に合わせて休憩をとる）	
		面会に来ている家族の言動に着目し、家族の思いに耳を傾け、家族も小児看護の対象であることを理解する	午前と同じように児やその家族と関わり、援助を見学、実施する バイタルサイン測定実施 看護師の指導のもとに児への援助を実施または見学する	面会の家族への看護師の対応方法を見学する 家族指導（沐浴指導・授乳指導）を見学する 家族より話を伺い、児への思いを傾聴する
15:00 15:30 16:15		学生カンファレンスで、見学したこと、体験したことの中より小児看護について自己の考えを深める	学生カンファレンスは、学生が主体的に運営し、1日の実習で体験したことより学びを深めていく。カンファレンステーマは、こどもの権利、遊び、こどもの入院環境、家族看護、入院や治療に対する思い、痛みを伴う処置や検査、地域で暮らす小児を支える看護、看護実践の振り返り、日々困ったことなどから具体的なテーマを挙げてメンバーで意見交換を行い、自己の考えを深める 実習最終日はプロセスチャートを作成し、カンファレンスにて発表を行う。（最終カンファレンスは13時～14時） 実習終了	

3 小児科外来実習（外来実習：9時間×1日）

1) 具体的方法

外来実習では、午前は一般外来、午後は予防接種外来（※月曜日と木曜日）または、乳児健診（※火曜日と金曜日）のいずれかで実習する

2) 実習記録

①外来実習の記録は、『外来実習』（A4サイズ）の記録用紙に記入する。（1日1枚）

②記録物は個人の実習ファイルに綴じ込み、実習開始前に3B病棟の所定の場所に置く。
（教員が内容確認した後、小児科外来の実習指導者に提出する。）

3) タイムスケジュール

一般外来（午前外来 4時間）

時間	場所	ねらい	主な行動
8:25	清水病院 小児科外来		小児科外来に行き、外来看護師に挨拶を行う 実習目標を伝え、実習方法の説明を受ける
8:30		健康障がいを持ち、受診行動をとる病児とその家族と関わり、病児や家族の思いから看護について考える 痛みを伴う処置や検査の見学を通し、児の安全で負担が少ない援助の方法と看護を考える	小児科外来に初診で訪れた小児と家族に同行し、待合室から帰宅につくまで受診行動の全過程を通して、コミュニケーションを図りながら、小児と家族の様子やについて観察する。 診察・処置の場面では看護師の指導のもと、診療の介助・計測・処置・患者や家族への指導を見学する
11:30			一般外来実習終了

乳児健診または予防接種外来（午後外来 4時間）

時間	場所	ねらい	主な行動
12:30	清水病院 小児科外来		小児科外来看護師に挨拶を行い、実習目標を伝え、実習方法の説明を受ける
13:00		【乳児健診】 乳児健診を見学し、小児の成長発達のための、乳児健康診査の意義を考える 【予防接種】 小児に特有な感染症に関する知識と実際を結びつける 予防接種外来で行われていることを見学し、小児に予防接種を行う方法と家族への説明、留意点を理解する。	【乳児健診】 看護師の指導のもとに、乳児の身体計測を行う 乳児の全身の観察を通して特徴を理解する 診察、生活指導、離乳食指導などを見学し、乳児健診で行われていることを学ぶ 栄養相談に同席する 育児に対する母親や家族の不安を傾聴し、医師・看護師の関わりより、支援について考える 【予防接種】 児の身体計測を看護師と一緒に 予防接種外来で行われている処置を見学する 予防接種の準備、接種前の診察・予防接種の実際・家族への説明の見学を行う
15:00		3B病棟 学習室	学生カンファレンス（カンファレンスは病棟実習の学生とともに）
16:15		学生カンファレンスで、見学したこと、体験したことの中より小児看護について自己の考えを深める	

4 障がい児支援施設見学実習（2時間）

1) 具体的展方法

- ①清水うみのこセンターへ実習に行く学生は、清水うみのこセンターの見学実習に参加する。
 いこいの家もしくは、中央特別支援学校へ実習に行く学生は、いこいの家の見学実習に参加する。
 ②施設見学後に、各施設の特徴を踏まえ、地域における障がい児支援について学びを統合する。

➤社会福祉法人 静岡市しみず社会福祉事業団 静岡市清水うみのこセンター見学実習

(1) 対象学生

静岡市清水うみのこセンター見学実習で実習を行う学生

(2) 実習場所

静岡市清水うみのこセンター見学実習で実習を行う学生

(3) 実習時間 14:00～16:00

(4) 服装および持参するもの

服装：施設見学にふさわしい服装

持ち物：上履き用シューズ、靴を入れるビニール袋、筆記用具

注意事項：施設利用者、家族、職員に対し気持ちの良い挨拶をする。

交通手段として公的機関を使用する場合、自らの言動に責任を持ち守秘義務を徹底する。

➤静岡市中心身障害児福祉センターいこいの家の見学実習

(1) 対象学生

静岡市中心身障害児福祉センターいこいの家及び、静岡県立中央特別支援学校で実習を行う学生

(2) 実習場所

静岡市中心身障害児福祉センターいこいの家

(3) 実習時間 14:30～16:30

(4) 服装および持参するもの

服装：施設見学にふさわしい服装（園内は、上靴は履かない。）

持ち物：筆記用具

注意事項：子ども、家族、職員に対し気持ちの良い挨拶をする。

交通手段：公的機関を使用する場合、自らの言動に責任を持ち守秘義務を徹底する。

2) タイムスケジュール

時間	ねらい	学生の動き
うみのこセンター 14:00～16:00 いこいの家 14:30～16:30	心身や発達に障がいをもつ小児が地域社会で生活する場を知り、小児看護の役割について学ぶ。 小児看護学実習の事前準備として、施設の概略を知る。	施設職員にあいさつを行う。 施設長もしくは実習担当職員より施設オリエンテーションを受ける。 (施設の概要、事業計画、施設の特性、利用者の状況、職員の概要、多職種連携、施設の構造) 学生実習方法の説明 施設見学
実習最終日	心身や発達に障がいをもつ小児が地域社会で生活する場を知り、地域における機能や多職種との連携について学びを統合させる。	見学実習において学んだ各施設における多職種連携の視点を活かし、日々の実習体験の学びをラベルやプロセスチャートに表現させる。

5 障がい児支援施設実習

1) 実習場所

静岡県立中央特別支援学校、静岡市中心身障害児福祉センターいこいの家、社会福祉法人 静岡市しみず社会福祉事業団 静岡市清水うみのこセンターのうち1か所で2日間実習を行う。

2) 実習時間 8:30～16:15

3) 実習記録

- ①障がい児支援施設実習記録用紙（1日1枚）は、目標を記入し、毎朝担当職員に伝える。
- ②施設でのアドバイスを受けたら、実習記録に反映させる。記録は、実習終了後担当教員に提出する。

4) 注意事項

- ①施設の掃除は職員とともに実施し、こどもたちの環境調整について考える
- ②代表学生が出欠席を実習担当指導者に報告する。やむを得ず欠席、遅刻する場合は、施設と学校に8:20までに電話連絡を行う。
- ③更衣は施設更衣室をお借りする。私物は毎日持って帰る。

5) 事前オリエンテーションおよび施設見学（実習施設別に行う）

自分が実習する施設のオリエンテーションに参加すること。日程は別途案内する。

6) タイムスケジュールおよび各実習施設特記事項

▶社会福祉法人 静岡市しみず社会福祉事業団 静岡市清水うみのこセンター

時間	ねらい	学生の動き
8:30	通園してくる親子の様子を観察しながら関わり、こどもの思いを受け止め、コミュニケーションをとる方法を学ぶ 親子ひとり一人の状況に応じた関わり方を学ぶ	時間までに更衣を済ませて、施設職員に挨拶を行う。 こどもたちの登園を手伝う。 各クラスの日課や活動内容に沿って一緒に過ごす。 こどもたちの発達障がいの状況を知り、職員の指導のもとに遊びや保育を行う。 職員のケアの場면을観察し、必要なかわり方を学ぶ。
12:00	こどもたちの帰り支度を手伝い、施設職員と家族の連携を学ぶ	こどもたちの帰り支度を手伝う
13:00	午前の活動に準ずる	午前の活動に準ずる
15:15～	カンファレンスを通し、健康や発達に障がいをもつ母子との関わり方を学び、子どもの健やかな成長発達促進に向けた、地域における看護の役割について考える	学生カンファレンスは学生が主体的に運営し、日々の気づき・困ったことを出し合い、学びを深める 1日目：学生の気づき・困ったこと 2日目：健康や発達に障がいを抱える小児が地域で暮らすために看護ができること
16:00～	こどもたちの受け入れ準備、帰宅後の清掃など、こどもたちが安全に過ごせる環境について考える	施設職員とともに掃除を行う
16:15		実習終了

服装：トレーニングウェア（ズボン丈の長いもの）、実習用エプロン

持ち物：運動靴、帽子、タオル、ティッシュ、弁当（弁当箱に入れて持参する）、

水筒（ペットボトルは禁止）、室内用シューズ（体育館シューズなど）

移動：公共交通機関、または自転車・バイクを使用する。

▶いこいの家

時間	ねらい	学生の動き
8 : 30	通園しているこどもたちの様子を観察しながら関わり、こどもの思いを受け止め、コミュニケーションをとる方法を学ぶ こどもたちひとり一人の状況に応じた日常生活援助の方法を学ぶ	時間までに更衣を済ませて、施設職員に挨拶を行う。 こどもたちの登園を手伝う。 各クラスに入り、担当者の指導のもと、クラスの日課に沿って一緒に過ごす。 こどもたちの健康障がい、発達障がいの状況を知り、職員の指導のもとに日常生活援助を行う。 看護師のケアの場면을観察し、必要なケアを学ぶ。
12 : 00	こどもたちの食事行動を観察し、必要な支援を考える	こどもたちの食事の様子を観察し、必要な場合は食事介助を行う
13 : 00		休憩
	こどもたちの帰り支度を手伝い、施設職員と家族の連携を学ぶ	午前の活動に準ずる こどもたちの帰り支度を手伝う
15 : 15～	カンファレンスを通し、心身や発達に障がいをもつ小児との関わり方を学び、こどもたちがいきいきと過ごせる環境について考え、地域における看護について考える	学生カンファレンスは学生が主体的に運営し、日々の気づき・困ったことを出し合い、学びを深める 1日目：学生の気づき・困ったこと 2日目：心身や発達に障がいを抱える小児が地域で暮らすために看護ができること
16 : 00～	こどもたちの受け入れ準備、帰宅後の清掃など、こどもたちが安全に過ごせる環境について考える	施設職員とともに掃除を行う
16 : 15		実習終了

服装：トレーニングウェア（ズボン丈の長いもの）、エプロン（実習用と配膳用）

持ち物：運動靴、帽子、タオル、ティッシュ、弁当（弁当箱に入れて持参する）、

水筒（ペットボトルは禁止）、室内では靴やスリッパは用いない

移動：公共交通機関、または自転車・バイクを使用する。

▶特別支援学校

時間	ねらい	学生の動き
9 : 00	教育を受ける児童の様子を観察し、関わり、児童の思いを受け止め、コミュニケーションをとる方法を学ぶ 児童の状況に応じた日常生活援助の方法を学ぶ 児童の食事行動を観察し、必要な支援を考える	時間までに更衣をすませて、施設職員にあいさつを行う 児童の登校を手伝う。児童や家族の様子や教員との関わり場の場面を見学する 小学部または中学部のクラスに入り、担当教員の指導のもと、学校の日課に沿って児童と一緒に過ごす。 児童の健康障がい、発達障がいの状況を知り、職員の指導のもとに日常生活援助を行う 看護師のケアの場면을観察し、児童に必要なケアを学ぶ 児童の食事の様子を観察し、必要な場合は食事介助を行う
12 : 00		（職員の指示に従い、食事後に休憩をとる）
13 : 30	児童や家族と学校との連携の実際を知る	各クラスにて実習 引き続き、児童と関わる 児童の帰り支度を手伝い、児童やその家族とコミュニケーションを図る

15 : 45	カンファレンスでは、児童との関わりを通し、気づいたこと、保健医療・福祉・教育との連携について、健康や発達に障がいを抱える児童が在宅で療養するために看護ができることについて考えを深める	学生カンファレンスを行い、日々の学びを深める 1日目：実習指導教員の指導を受け、児との関わり方、個別性について考える 2日目：担当教員、実習指導教員とともに2日間の学びを深める
16 : 45		実習終了

服装：ユニフォーム、エプロン（実習用と配膳用）

登下校時はポロシャツとパンツ

持ち物：運動靴、帽子、室内用シューズ（体育館シューズなど）、タオル、

ティッシュ、弁当（弁当箱に入れて持参する）、水筒（ペットボトルは禁止）

移動：通学方法は公共交通機関を利用する。

自家用車での送迎（学校敷地内乗り入れ）は禁止する。

VII. 実習記録

1. 小児看護学実習記録ⅠⅡⅢは、A3サイズに拡大コピーをして使用する。
2. 記録用紙は以下の順にそろえて提出する。
 - 1) 評価表
 - 2) プロセスチャート（自己の小児看護観）
 - 3) 小児病棟実習
 - ① 小児看護学実習記録Ⅱ（一日の実習計画表）
 - ② 小児看護学実習記録Ⅲ（受けもち患児記録）
 - 4) 小児看護学実習記録Ⅳ（小児科外来実習記録）
 - 5) 小児看護学実習記録Ⅴ（障がい児支援施設実習記録）
 - 6) こども園実習
 - ① レポート「私の小児観」 ※A4原稿用紙3枚以上
 - ② 小児看護学実習記録Ⅰ（こども園実習記録）

VIII. プロセスチャート作成について

1) ねらい

実習を通し、各施設で出会ったこどもと関わり、こどもの特性から「こどもたちや家族が地域で暮らしていくために必要な援助とは何か」を考え、自己の学びを整理するために行う。こどもの姿をよく観察したりこどもの思いを感じることで実習に主体的に取り組み、看護について自己の考えを深めることができる。

2) 方法

(1) ラベルを書く。

日々の実習の中で出会った場面を振り返ることで、こどもが何かに取り組んでいる姿、一生懸命な姿をとらえ、どのような思いでいるのかを考える。病院実習では、看護師の看護を見学したり健康障がいを抱えたこどもの苦痛や生活のしづらさなどからこどもや家族への看護で大切だと実感した場面を振り返る。

＊ラベルの書き方
記入例)

点滴刺入部位の観察時、児が泣き出してしまったので、観察を中止して飛び出す絵本を開いたら、笑いながら絵本のしかけを楽しみ、その後、自分から刺入部を見せてくれた。
恐怖を感じる処置であっても、子どもが楽しめる環境を作りだすことで子どもの主体性を引き出すことができる。

□月○日 ○△病棟 学生 ○○△□

(2) 書いたラベルの使用方法

黄 色：その日の実習記録に貼る

ピンク：記録提出時にまとめて担当教師に提出する

白 色：プロセスチャート作成に使用する

＊ラベルは日々の記録へ貼付

- ・こども園実習：小児看護学実習記録Ⅰ（こども園実習記録）の欄外に貼付
- ・病棟実習：小児看護学実習記録Ⅱ（一日の実習計画表）の枠内に貼付
- ・外来実習：小児看護学実習記録Ⅳ（小児科外来実習記録）の欄外に貼付
- ・障がい児支援施設実習：小児看護学実習記録Ⅴ（障がい児支援施設実習記録）の欄外に貼付

(3) 病棟実習終了後にプロセスチャートを作成する。

9枚のラベルを読み、その時々思ったこと、考えたことを思い出す。それらを手がかりに自分の考えや意識がどう変化していったのか見つめる。

- ・A3用紙にラベルを配置し、図解（チャート）を作成していく。表現の形式の制限はない。イラストや内容を分類したり表を作成したりつながりに矢印を加えたり自由に表現していく。
- ・「プロセスチャートを作成して」というテーマで自己の看護について文章で表現する。実習で出会ったこどもたちやその家族との関わりを通して、看護をしていく上で大切だと考えた事は何か、自己の考えがどのように変化して学びとなったのか、表現する。（右下に入れる）
- ・左上に自分の図解のタイトル（デザインの意味など）を記入する。
- ・10枚目のラベルは、「プロセスチャートの発表を終えて」のタイトルで最終発表会を終えてから記入し、プロセスチャートの裏面に貼付する。

プロセスチャート例)

小児看護学実習

「小児看護で大切なことは、こどもが理解できる関わり方をしてこどもの力を引き出すことである」

プロセスチャートを作成して

「こどもと関わり、～～などからこどもの感じている世界を知り、～～～のような看護について考えることができた。こどもが健康障がいをもつことは子どもだけでなくその家族も～～～であり、○○も大切であることに気づくことができた。そのことから小児看護において～～～が大切であると考えるに至った。」

○年△月□日

図解の意味：学校内の緑地と花壇に咲く花を子どもの成長と成長に必要な環境に見立てた。

小児看護学実習配置表（例）

	施設見学実習	実習 1 日目	実習 2 日目	実習 3 日目
実 習 内 容	R7 年 5 月 1 日(木) 障がい児支援施設実習 施設見学、実習オリエンテーション	こども園実習① 各クラスに入り、保育教諭の指導のもとこどもたちと関わり日常生活援助を実施する	こども園実習②	こども園実習③ →
記 録		こども園実習記録 (こども園に提出)	こども園実習記録 (こども園に提出)	こども園実習記録 レポート 『私の小児観』
C F		午後：本日の学び	午後：本日の学び	午後：こども園実習の学び
	実習 4 日目	実習 5 日目	実習 6 日目	実習 7 日目
実 習 内 容	障がい児支援施設実習① (以下のうち1か所で実習) ・県立中央特別支援学校 ・いこいの家 ・清水うみのこセンター 様々な障がいをもちながら地域で生活する小児と関わり、援助を体験する	障がい児支援施設実習② →	小児科外来実習 【午前】一般外来 【午後】乳児健診 または、予防接種 ※乳児健診(火・金) 予防接種(月・木)	病棟実習① 患児、もしくは新生児を1人受けもち看護師とともに患児や家族へのケアを見学、実践する
記 録	障がい児支援施設実習記録	障がい児支援施設実習記録	外来実習記録	1 日の実習計画表 小児看護学実習記録 I
C F	15:30～ 健康や発達に障がいのある小児との関わりについて	15:30～ 健康や発達に障がいを抱える小児が地域で暮らすために看護ができること	15:00～ テーマカンファレンス ※病棟実習の学生と一緒に	15:00～ テーマカンファレンス
	実習 8 日目	実習 9 日目	実習 10 日目	
実 習 内 容	病棟実習② →	病棟実習③	病棟実習④ → プロセスチャート作成と発表	
記 録	1 日の実習計画表 小児看護学実習記録 I	1 日の実習計画表 小児看護学実習記録 I	1 日の実習計画表 小児看護学実習記録 I プロセスチャート	
C F	15:00～ テーマカンファレンス	15:00～ テーマカンファレンス	13:00～ 社会の中で暮らす小児と家族に対する看護の役割	

学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一歩努力を要する
社会の中で暮らす小児やその家族について理解する	小児の成長発達の特徴を理解し、様々な状況にある児や家族の健康状態を表現している	対象理解 探求心	事前学習 実習記録 カンファレンス発言 実習状況 面接	小児の成長発達段階や日常の暮らしをふまえ、小児や家族の身体・心理・社会的な健康状態を基礎的知識と関連させて解釈している。 20	小児の成長発達段階や、小児とその家族の健康状態について解釈している。 15	小児の成長発達段階や、健康状態について情報収集している。 10	小児の成長発達や健康状態の特徴を表現している。 5
小児の成長発達を促すための取り組みを実践する	小児の成長発達段階や個性に応じた援助を考え実践している	対象理解 実践力 調整力	事前学習 実習記録 カンファレンス発言 実習状況 面接 調整状況	小児やその家族の望ましい姿の実現にむけ、根拠に基づいた援助を実践し、小児の個性を捉えて、より良い関わりに発展させている。 25	小児の発達段階や健康状態に応じた必要な援助を考え、安全に配慮して実践している。 15	気づきを視点に、対象者に必要な援助を実践している。 10	看護師が行う援助を、指導者と一緒に実践している。 5
小児の権利を護るための行動をする	小児の権利を理解し、倫理観をもって小児やその家族と関わっている	実践力 倫理観	実習記録 カンファレンス発言 日々のラベル プロセスチャート 実習状況 面接	小児の体験していることをありのままに捉え、小児や家族の生活上の信条や価値に注目し、思いや考えを尊重して関わっている。 20	小児の発するサインに気づき、小児の欲求に応じる関わりをしている。 15	小児との関わりを通し、小児の権利擁護の必要性について注目した発言がある。 10	小児の尊重すべき権利について、理解したことを表現している。 5
自己の小児看護観を表現する	小児や家族との関わりを通して自己の小児観を深め地域社会における小児看護の役割を表現している	探求心 倫理観	日々のラベルとプロセスチャート 実習状況 レポート・面接	日々の様々な体験から自己の小児観を深め、地域における小児看護の役割を表現している。 20	実習体験をもとに、小児看護の役割を表現している。 15	日々の実習体験を振り返り、得たことを表現している。 10	自己の体験を表現している。 5
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する。	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るために適切な行動を取り、仲間の模範となりチームをけん引している。 15	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている。 10	社会的規範は守っているが、看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る意識が低い。 5	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している。 0

欠課時間

()時間／90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点